

この添付文書をよく読んでから使用してください。

体外診断用医薬品

平成21年2月全面改訂（第1版）
21100AMZ00440000

トレポネーマ抗体キット

エバテストTP

エバネセント波蛍光免疫測定法

全般的な注意

- 本品は体外診断用医薬品であり、それ以外の目的に使用しないでください。
- 測定結果に基づく診断は、臨床症状や他の検査結果等と併せて担当医師が総合的に判断してください。
- 添付文書以外の使用方法については保証できませんので、あらかじめご了承ください。
- 測定装置の取扱説明書をよく読んでから使用してください。
- 本品には動物由来成分が含まれておりますので、感染の危険があるものとして取扱ってください。

形状・構造等〈キットの構成〉

- 反応キュベット …………… 60個
- ①蛍光標識抗体（インドシアニン標識抗ヒトIgGヤギポリクローナル抗体 0.8 μg/テスト）
 - ②固相抗原（トレポネーマ・パリダム（TP）抗原 17 ng/テスト）
 - ③緩衝液
- 付属品
- ロットカード …………… 1枚

使用目的

血清中の梅毒トレポネーマ・パリダム（TP）抗体の測定。

測定原理

エバネセント波を用いたサンドイッチ法による蛍光免疫測定を原理としています。プラスチック表面に固相化したTP抗原に検体中のTP抗体（TPAb）を反応させると、固相抗原－TPAbの免疫複合体が生じます。次のステップで反応液除去後、蛍光標識抗体を加えると、固相抗原－TPAb－蛍光標識抗体の免疫複合体を形成します。この蛍光標識抗体を、プラスチック内を全反射しながら反応系内にしみだした光（エバネセント波）で励起し、生じた蛍光量からTPAbを定量します。

エバネセント波は表面近傍の複合体の蛍光色素を選択的に励起するため、B/F分離することなく検体中のTPAb量を反映した蛍光強度が検出できます。

操作上の注意

- 1. 測定試料の性質**
- 検体採取後、測定試料としてただちに測定に使用してください。検体を長時間保存する場合は-20℃以下で凍結保存し、使用前によく混和してください。
- 2. 試料の採取法**
- 採血は溶血を避けて、早朝空腹時（食後12 ～ 14時間）に行ってください。
 - 血清を使用してください。
- 3. 妨害物質**
- 検体中のビリルビンCは21.0 mg/dL、ビリルビンFは19.3 mg/dLまで測定値に影響を与えません。
 - 溶血ヘモグロビンは470 mg/dLまで測定値に影響を与えません。
 - 乳ビは1900度（ホルマジン濁度数）まで測定値に影響を与えません。
- 4. 測定上の注意**
- 測定には専用装置であるエバネットEV20を使用してください。

用法・用量〈操作方法〉

必要な器具および試薬類

- エバネットEV20
- TP標準品
- エバテスト用緩衝液
- エバテスト用洗浄液
- 精製水または蒸留水

試薬の調製

- 反応キュベットはそのまま使用してください。
- 反応キュベットは、泡立でないように必要な数量のみを冷蔵庫から取り出し、黒色のパックのまま室内温度（15 ～ 30℃）に戻してください。反応キュベットは黒色のパックから使用直前に取り出して使用してください。
- 黒色のパックから取り出した反応キュベットはできるだけ早く使用してください。

測定の準備

- 「エバネットEV20」の緩衝液ボトル、洗浄液ボトル、純水ボトルに十分な液量があり、廃液ボトルは空になっていることを確認します。
- 必要量の反応キュベットを黒色のパックより取り出します。
- 「エバネットEV20」の画面が【メインメニュー】の表示になっているか確認します。【メインメニュー】画面でない場合は「エバネットEV20」の取扱説明書を参照し、【メインメニュー】画面に設定します。

校正

新規ロットを初めて使用する場合、まずロットカードのデータを読み込ませ、続いて別売の「TP標準品」（コード：01392）を用いて校正を行います。このようにして作成した検量線は4週間毎に「TP標準品」を用いて更新してください。

1. 新規ロットを初めて使用する場合

- 【メインメニュー】画面の **F2**(校正)を押します。
- F1**(新規)を押します。
- 同封のロットカードをロットカードホルダに差し込みます。
- このロットカードホルダをキュベットトレイにセットします。
- このキュベットトレイをステージにセットします。
- サンプルアクセスドアを閉め、**F5**(確認)を押します。ロットカードに記憶された検量線の読み込みが行われます。読み込みが終了すると、画面が変わるので確認します。
- サンプルアクセスドアを開けてロットカードを取り出します。
- 標準品をキュベットに分注します。「TP標準品」【N】陰性コントロール、【P】陽性コントロールと反応キュベットを6個用意します。【N】【P】を各3個の反応キュベットにそれぞれ3滴ずつ滴下します。
- この反応キュベットを画面の濃度指定に従って、キュベットトレイにセットします。反応キュベットは検体槽が手前になるようにセットします。
- 反応キュベットをセットしたキュベットトレイをステージにセットします。
- 反応キュベットをセットしたら、**F5**(確認)を押します。
- サンプルアクセスドアを閉め、**START** を押すと校正が開始されます。
- 校正結果が表示されるので、**F5**(確認)を押します。
- 【校正終了】画面になり、次に「校正結果を登録しますか?」というメッセージが表示されますので、校正結果を登録する場合には **F1**(YES)を、登録しない場合には **F2**(NO)を押します。登録後は【メインメニュー】画面に戻ります。

【校正】TP						COI
スロット：	6	5	4	3	2	1
	P	P	P	N	N	N
反応キュベットをセットしてください						確認

2. 4週間毎の検量線の更新

- 【メインメニュー】画面の **F2**(校正)を押します。
- F2**(更新)を押します。
- TPに対応するファンクションキーを押します。
- 1の 8)～14) の操作を行います。

検体の測定

- サンプルアクセスドアを開けてキュベットトレイを取り出します。
- 反応キュベットの検体槽へ検体を100 μL以上分注します。検体は検体槽の底へ確実に分注します。ただし、検体を過剰に入れないでください。
- キュベットトレイに反応キュベットをセットします。
- 反応キュベットをセットしたキュベットトレイをステージにセットします。
- サンプルアクセスドアを閉めます。
- 画面が【メインメニュー】になっていることを確認します。
- F1**(測定)を押します。
- F5**(確認)または **START** を押します。
- F5**(確認)を押した場合はバーコードの読み取り後、セットした項目を表示します。項目に間違いがなければ **F5**(設定)を押します。【測定】画面に戻り「反応キュベットをセットして確認またはSTARTキーを押してください」のメッセージが表示されたら **START** を押します。
- 同時に他の項目を測定する場合には、検体の種類(全血/血清)、測定レンジの設定が必要になることがあるので、「エバネットEV20」の取扱説明書を参照してください。**F5**(確認)を押さずに **START** を押した場合にはそのまま測定が開始されます。
- 測定が終了したスロットから順次測定結果が画面に表示され、測定が全て終了すると同時にプリントアウトされます。

測定結果の判定法

測定結果の判定

1) カットオフインデックス（COI）の計算

$$COI = \frac{S - N}{P - N} \times 8$$

S=検体の蛍光信号値
N=陰性コントロールの蛍光信号値
P=陽性コントロールの蛍光信号値

2) 判定

①COIが1未満の検体は陰性と判定します。

②COIが1以上の検体は陽性と判定します。

判定上の注意

1) 異好性抗体や自己抗体等の非特異反応物質が存在した場合、測定されるTP抗体濃度は、実際のTP抗体濃度よりも高値または低値を示すことがあります。

2) 抗体産生初期や免疫機能低下により抗体産生能が低下している場合は、抗体量が少なく陰性と判定される場合があります。

3) 免疫グロブリンを含む血液製剤を投与されている患者血清では、投与された製剤による陽性反応を呈する場合があるので、その判定については、ご注意ください。

臨床的意義

梅毒トレポネーマ・パリダム（TP）の感染は期間と症状により、第1期から第4期に分けられ、とくに初期（第1期、第2期）の梅毒に感染力があるとされています。しかしながら、第1期及び第2期の特有な症状が出ないまま病気が進行してしまう場合もあり、放置してしまうと第3期～第4期に進み、内臓や脳をおかし重大な病気へと進行していくため、感染の初期に検査を行い、適切な治療を受けることが重要とされています。TP抗体の検出は、このような梅毒の診断や輸血による感染の予防などに有用です。

性能

用法・用量〈操作方法〉欄の操作方法に従って次の性能試験を行うとき以下の条件に適合します。

1. 感度試験

陰性コントロールおよび陽性コントロールを測定したとき、陽性コントロールの蛍光信号値は陰性コントロールの蛍光信号値の20倍以上です。

2. 正確性試験

陰性管理検体および陽性管理検体を測定するとき、陰性管理検体は陰性を示し、陽性管理検体は既知濃度の±20%以内を示します。

3. 同時再現性試験

陰性管理検体および陽性管理検体をそれぞれ10回同時に測定するとき、陰性管理検体はすべて陰性を示し、陽性管理検体のCV値は15%以下です。

4. 相関性

他社（A社）TPHA法との相関性は次のとおりです。

n=195		TPHA	
		陰性	陽性
エバテストTP	陰性	122	0
	陽性	1	72

（一致率 99.5%）

使用上または取扱い上の注意

1. 取扱い上の注意事項

1) 検体および検体に接触した器具、試薬および試薬容器などは感染の危険があるものとして取扱ってください。検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、口によるピペティングは行わないでください。

2) 標準品は、HBs抗原、HIV抗体、HCV抗体の検査を行い、陰性であることを確認してありますが、使用時は感染の危険性があるものとして、検体と同様に十分に注意して取扱ってください。

3) 試薬をこぼした場合には、水で希釈してから拭き取ってください。検体の場合は、次亜塩素酸剤（有効塩素濃度 1000ppm、0.1%）等の消毒液を使用して十分に拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋等により手を保護してください。

4) 試薬が目や口に入った場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師などに相談し、指示を受けてください。

5) 試薬が誤って皮膚および粘膜に付着した場合には、直ちに水で洗い流してください。

2. 使用上の注意事項

1) 本品は凍結を避け、貯法に従い保存してください。それ以外の条件に保存した試薬は、品質が変化して正しい結果が得られないことがありますので使用しないでください。

2) 使用期限を過ぎた試薬は使用しないでください。

3) 1日1回測定終了時に別売の「エバネット用クリーニングキュベット」（コード：01325）を用いてノズル洗浄を行ってください。操作方法は「エバネットEV20」の取扱説明書を参照してください。

廃棄上の注意事項

1) 使用後の試薬、器具等はオートクレープで滅菌処理するか、消毒液（次亜塩素酸ナトリウム溶液等）に浸してから廃棄してください。また、廃棄の際には、廃棄物に関する規定に従って医療廃棄物または産業廃棄物等に区別して処理してください。

2) 測定後の廃液についても、上記と同様に滅菌または消毒の処理を行ってください。また、これらを廃棄する場合には、各地域によって定められた規定に従ってください。

3) 本品は、保存剤としてアジ化ナトリウムを含んでいるため、爆発性の金属アジドが生成しないように廃液は十分量の水で流してください。

貯蔵方法・有効期間

貯蔵方法

冷所（2 ～ 8℃）で保存してください。

有効期間

1年間。

外箱および容器のラベルに使用期限を表示してあります。

包装単位

エバテストTP 60回用

Code 01373

別売関連製品

TP標準品 3セット

Code 01392

エバテスト用緩衝液 500 mL × 6本

Code 01327

エバテスト用洗浄液 500 mL × 1本

Code 01328

エバネット用クリーニングキュベット 10回用

Code 01325

主要文献

1) 前川博行，他：医学と薬学 42(3)，455～460（1999）

問い合わせ先

〒110-8736 東京都台東区上野 3-23-9

日水製薬株式会社 カスタマーサポート担当

電話 03(5846)5707

FAX 03(5846)5629

製造販売元

日水製薬株式会社

東京都台東区上野 3-23-9 〒110-8736 TEL 03(5846)5611（代）

(9B)